

## 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

**観点9-1-①： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。**

#### 【観点に係る状況】

教育活動に関する基礎的データ（学籍関係、授業関係[カリキュラム、授業担当者、成績]、進級・卒業・学位授与状況等）は、学生支援部、各学部が逐次収集・蓄積している。加えて、平成20年度には全学共通の教務情報システムを導入し、シラバス、成績評価結果の収集・蓄積を開始している。

さらに、大学経営・各種評価・広報等、今後増大する学内外からの大学情報ニーズに対応するため、教育の状況に関するデータや教員の活動状況に関するデータをデータベース（分散データ統合管理システム）において、収集・蓄積している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

教育活動等のデータは、学生支援部・各学部や教務情報システムで収集・蓄積するとともに、分散データ統合管理システムにおいて、各種データを収集・蓄積していることから、本観点を十分に満たしていると判断する。

なお、教務情報システムと学内の他システムとの間で効果的な連携など、教育改善に役立つ集約的・機能的なデータ収集・管理システムの構築が課題である。

**観点 9-1-②： 大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。****【観点に係る状況】**

本学の教育に関わる各組織（各学部教務委員会及び学内共同教育研究施設、学生支援部）からの代表者によって構成された教務部門会議で、全学教職員からの意見を集約の上、全学的な活動に反映している。

また、高等教育開発センターを中心に、毎年度、教員と学生による合同研修会「きつちよむフォーラム」を開催し、学生からの授業内容・教授方法などに関わる問題提起を通して意見交換を行っている。その結果、教養教育シラバスの掲載順の変更（曜日・時間順）、新規授業の開設（プロジェクト型学習入門）等の改善に繋げている。（資料9-1-②-B1）

加えて、教務部門会議及び学生支援部門会議の教員と学生代表が参加して、毎年度、「学生と教員との意見交換会」を開催し、学生の意見や要望を集約している。更に、電子意見箱等により大学運営に関する意見等も随時聴取している。（資料7-1-②-B1）また、経済学部、医学部の学部単位で毎年度、学生との意見交換を行っている他、工学部では卒業時にアンケートを実施し、学生の意見を聴取している。（資料9-1-②-A1）

また、毎学期末に「授業改善のためのアンケート調査－学生による授業評価－」を実施し、学生から意見を聴取している。分析結果は報告書やホームページ上で公開しており、授業担当各教員はその結果を踏まえ、授業の課題と改善点を『教員による自己点検レポート』として報告している。

（資料2-1-②-B1、資料5-2-②-B2）

資料 9-1-②-A1 在学生アンケート結果

(平成19年度 大分大学工学部在学生へのアンケート) 回答数 265 1/2

学生 関連	0-1 入学年度	16年度以降	15年度以前	無記入		0-3卒業後の進路		大学院進学	就職	その他	無記入	
		213	51	1				126	127	11	1	
授業・ 施設に 関する 質問	0-2 所属学科、 コース	機械コース	エネルギー コース	電気コース	電子コース	知能情報 システム	応用化学	建築コース	メカトロニクス コース			
		29	34	19	31	46	47	44	15			
授業・ 施設に 関する 質問	1-1 一般教養科目(英語以外)			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				7	90	123	39	5	1	3.21	0.79	
	1-2 英語			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				4	51	124	67	10	9	2.89	0.82	
	1-3 専門基礎科 (数学, 物理, 化学等)			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				9	140	84	20	2	10	3.53	0.73	
	1-4 専門科目(講義)			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				11	143	81	20	1	9	3.56	0.72	
授業・ 施設に 関する 質問	1-5 専門科目(演習, 実験)			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				18	147	73	16	2	9	3.64	0.74	
	1-6 卒業研究			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				36	113	84	16	6	10	3.62	0.89	
	1-7 教員の教え方			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				12	79	122	32	6	14	3.24	0.82	
	1-8 教育設備			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				12	82	93	59	5	14	3.15	0.90	
理念目 標に 関する 質問	2-1 学生参加型の授業が行なわれていた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				3	59	105	79	9	10	2.87	0.85	
	2-2 講義と実験・実習との連携がうまくいっていた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				9	92	77	69	7	11	3.11	0.94	
	2-3 ものづくりの原点に立った人材養成が行なわれていた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				6	44	98	81	24	12	2.71	0.94	
	2-4 情報活用能力向上のための教育が充実していた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				4	72	103	64	10	12	2.98	0.87	
理念目 標に 関する 質問	2-5 技術者倫理教育がしっかりと行なわれていた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				9	89	84	65	6	12	3.12	0.91	
	2-6 就職支援体制がしっかりといた			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				31	98	78	34	11	13	3.41	1.01	
	2-7 「課題と方策」で、改善されたことがありましたか?			4. たくさんある	3. いくらかは	2. ほとんどない	1. まったくない	無記入	平均*	標準偏差*		
				1	115	110	25	14	2.82	0.88		
	導入 した 制度 に 関する 質問	3-1 成績指標値制度を導入したこと			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差
					27	126	73	13	8	18	3.61	0.87
3-2 履修上限制を導入したこと				5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				7	54	91	58	40	15	2.72	1.06	
3-3 TOEICに団体加入し、安価で手軽な受験を可能にしたこと				5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				127	97	24	2	2	13	4.37	0.75	
3-4 TOEIC等の高得点者に対し、英語の単位を認定したこと				5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				73	115	52	4	6	15	3.98	0.88	
導入 した 制度 に 関する 質問	3-5 大学院入試の英語をTOEICに置き換えた(又は併用)こと			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				31	95	105	12	5	17	3.54	0.85	
	3-6 専門基礎の数学、物理学の一部に能力別クラス編成を導入したこと			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				21	101	107	8	4	24	3.53	0.77	
	3-7 インターンシップを単位化し、奨励したこと			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				64	122	59	4	1	15	3.98	0.77	
	3-8 優秀な学生の表彰制度を導入したこと			5	4	3	2	1	無記入	平均	標準偏差	
				60	121	64	4	2	14	3.93	0.79	
3-9 JABEE(日本技術者教育認定制度)についてご存知ですか			4. よく知っている	3. 知っている	2. 聞いたことはある	1. 知らない	無記入	平均*	標準偏差*			
			30	115	72	31	17	3.11	1.15			
3-10 知能情報システム工学科ではJABEEの認定を受け、その他の学科でも、導入の準備・検討を行っています。これについてどう思いますか			5. 積極的に導入すべき	4. 導入した方がよい	3. わからない	2. 導入する必要はない	1. しない方がよい	無記入	平均			
			36	57	129	21	8	14	3.37			
									標準偏差*			
									0.94			

\* 回答する選択肢が1~4である項目に対する平均および標準偏差は、1~5であるものと公平に比較できるように数値を調整しています。

**【別添資料】**

- 資料 2-1-②-B1 教員による自己点検レポート集（抜粋）  
資料 5-2-②-B2 「授業改善のためのアンケート調査」前後期別概要版  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/fd/ev.html>  
資料 7-1-②-B1 平成 20 年度 学生と教員との意見交換会概要  
資料 9-1-②-B1 きっちよむフォーラム報告ホームページ  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/fd/fd081126.html>

**【分析結果とその根拠理由】**

教職員の意見は、組織的に集約され、全学的な会議において検討している。  
その他、教職員や学生との合同意見交換会、アンケート調査を全学的あるいは学部ごとに行い、授業の改善に活用している。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。****【観点に係る状況】**

平成19年度に、学外の有識者による全学の外部評価を実施し、評価結果は外部評価報告書としてホームページ上で公表している。(資料9-1-③-B1)

また、各学部でも自己評価結果に基づく外部評価を実施している。医学部では、外部評価の指摘を受けて教務委員会の下に6つの専門部会を設け、平成18年度に、医学教育モデル・コアカリキュラムに沿った臨床実習の見直しなどを行い、看護学科では平成21年度に向けたカリキュラム改革を行っている。

更に、卒業生及び修了生の能力及び教育成果に関する社会（雇用主）調査を実施している。平成18年度の調査結果では、特に「コミュニケーション能力の育成」が求められていることが判明した。(資料6-1-①-B1)これを踏まえて、コミュニケーション能力育成のために、教養教育において「アカデミックスキル入門」、及び「職業意識啓発科目」として「職業とキャリア開発」「教員志望者のためのキャリア開発」、「キャリアデザイン入門」を開講した。専門教育においては、各学部の演習・ゼミナールを通じてプレゼンテーション技法などの能力育成を進めている。

医学部では医学教育センターを設置して、臨床実習の改善を進めている。

**【別添資料】**

資料6-1-①-B1 教育成果に関するアンケート集計結果

資料9-1-③-B1 外部評価報告書

<http://www.oita-u.ac.jp/000001435.pdf>

**【分析結果とその根拠理由】**

学外関係者の意見聴取は外部評価、卒業生や就職先関係者のアンケート等により行われている。また、意見聴取を行った結果を教育の質の向上、改善に継続的にフィードバックしている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。**

**【観点に係る状況】**

毎学期末に「授業改善のためのアンケート調査－学生による授業評価－」を実施し、その分析結果をもとに担当教員は、自己点検を行い、「教員による自己点検レポート集」として公表している（資料9-1-④-A1、資料5-2-②-B2）さらに、高等教育開発センターは分析結果を活用し、発話・スマートボード等のFD研修会を通じて、教授技術等の継続的改善を行っている。

資料9-1-④-A1 学生による授業評価等の実施状況

実施時期		学生による授業評価	
		対象授業科目数	アンケート回答数
平成17年度	前期	445	13,684
	後期	335	8,982
平成18年度	前期	347	11,714
	後期	326	8,907
平成19年度	前期	366	15,582
	後期	329	11,197
平成20年度	前期	336	11,558
	後期	346	10,027

**【別添資料】**

資料5-2-②-B2 「授業改善のためのアンケート調査」前後期別概要版  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/fd/ev.html>

**【分析結果とその根拠理由】**

学生による授業評価は、組織的に集計・分析された上で担当教員にフィードバックしており、それぞれの授業改善に活かされる仕組みを整えている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。****【観点に係る状況】**

教務部門会議で、本学教員（大学院担当教員も含む）は3年に1度、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する研修会・講習会等に参加するという基本方針を策定している。これを受け、高等教育開発センターは、授業公開ワークショップ、WebClass 利用講習会、授業記録装置講習会等、授業改善に向けた様々な事業を実施している。（資料 9-2-①-A1, B1）

このうち、学内合同研修会「きっちよむフォーラム」では、教員と学生が合同で「シラバスの改善」、「学生の受講態度」等をテーマとしたシンポジウムを行い、学生の視点に立った教育改善に取り組んでいる。また、「学生による授業改善のためのアンケート調査」の分析結果を踏まえて、平成 18 年度から、学生の目線に立って授業を改善するための FD ワークショップ「授業改善のためのインストラクショナルデザイン・ワークショップ」及び教員に対する授業支援「授業デザイン創造の取組」事業を開始している。

上記の FD 活動に加えて、平成 18 年度に「大学院における FD の基本方針と大学院及び各研究科における取組案」（「大学院関係 FD のあり方」）を策定し、大学院担当教員を対象に2回の講演会（「新しい大学院教育のあり方について」、「学生に向き合い学生を理解すること—大学改革の言説に流されず—」）を開催した。（資料 9-2-①-B2）

また、経済学部では基礎演習の教育内容と教授法についての FD を行っている他（資料 9-2-①-B3）、経済学研究科では平成 19 年度より修士論文の中間報告会を行い、大学院の集団指導体制を推進している。（資料 9-2-①-B4）医学部医学科では、教職員の教育能力開発について、学内あるいは学外施設を利用し、カリキュラム作成、チューター養成、PBL 事例作成法等のテーマでワークショップや学習会を実施している。（資料 9-2-①-B5）医学部看護学科では、FD の指針を作成し、FD 部会を中心とした組織的な FD 活動を進めている。（資料 9-2-①-B6）

各 FD 活動の報告書は公表され、教員・学生共に成果を共有できるようにしている。また、FD 活動での指摘が多い問題点や事項は、「よりよい授業を実現するためのティップス」として情報を共有している。FD 活動の成果はシラバスの改良、配布物等の記述の変更などに見られ、教員の意識改革の一助になっている。（資料 9-2-①-B7）

## 資料 9-2-①-A1 平成 20 年度高等教育開発センター主催の FD 関連事業

事業名	実施日	教員 参加者数
WebClass 利用者講習会 ・ 且野原キャンパス ・ 看護学科	H20. 4. 22 H20. 5. 27	5 17
大分大学ティーチング・カフェ ・ その 1 ・ その 2	H20. 6. 17 H20. 6. 20	8 10
授業公開・検討会 ・ オンライン授業公開・検討会 ・ 授業公開・検討会 授業公開・参観（8 授業） 授業検討会（A 日程） 授業検討会（B 日程）	H20. 10. 1～15 H20. 12. 15～22 H20. 12. 15～19 H20. 12. 19 H20. 12. 22	9  7 14
FD や e ラーニングの他大学の動向 ・ 先進的 e ラーニングに関する研究会 ・ FD と e ラーニングに関する講演会	H20. 11. 14 H21. 1. 30	16 25
(学内合同研修会) 「きっちよむフォーラム 2008」 ・ 第 1 部 「学生教職員教育改善シンポジウム」 ・ 第 2 部 「教育課題・教育実践検討会」	H20. 11. 26	34 22
大学院 FD 講演会 ・ 「大阪大学大学院における教育改革」 ・ 「メンタルヘルス講演会」 (学部 FD と合同)	H20. 7. 24 H20. 11. 7	32 54

## 【別添資料】

- 資料 9-2-①-B1 高等教育開発センター  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/>
- 資料 9-2-①-B2 大学院 FD 講演会案内
- 資料 9-2-①-B3 経済学部基礎演習の手引き
- 資料 9-2-①-B4 中間報告会
- 資料 9-2-①-B5 医学部 FD 開催状況  
[http://www.med.oita-u.ac.jp/syomuka/evaluation2008/tenken/unei/gazou\\_s2\\_2.html](http://www.med.oita-u.ac.jp/syomuka/evaluation2008/tenken/unei/gazou_s2_2.html)
- 資料 9-2-①-B6 FD の指針
- 資料 9-2-①-B7 よりよい授業を実現するためのティップス  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/fd/fdtips.html>

## 【分析結果とその根拠理由】

本学は、教員にファカルティ・ディベロップメント (FD) への参加を義務付け、授業公開ワークショップ、WebClass 利用講習会、授業記録装置講習会等、授業改善に向けた様々な FD 事業を実施している。各学部も、その特性に応じた FD 活動を展開している。FD の結果は公表し、情報を共有している。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点 9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。**

**【観点に係る状況】**

事務職員及び技術職員を対象にキャリア・アップ研修の基本方針を定め、学内・学外研修、派遣研修（私立大学、民間企業等）及び公募研修を実施している。（資料 9-2-②-B1, B2）

平成 20 年度には、教育支援を担当する事務職員 1 名を、立命館アジア太平洋大学（スチューデントサポート・センター及びスチューデントアドバイザー・オフィス）に派遣した。派遣された職員は、毎月、実施した業務や大分大学と比較して感じたこと等を研修レポートとして提出し、それを学内専用ホームページに掲載して情報を共有している。（資料 9-2-②-B3）

工学部では、教育支援に当たる技術職員を組織化し、当該職員の活動成果に関する発表会を開催し、個々の資質向上と教育支援活動の活性化を図っている。

医学部では、医療機器のメンテナンスを担当する技術職員がメーカー主催の講習会に参加し技術指導を受けている。（資料 9-2-②-B4）

ティーチング・アシスタント（TA）に対しては、その資質向上を図るため、各学部で研修会や講演会を実施している。（資料 9-2-②-B5）

また、留学生チューターに対する説明会（研修会）を行い、質の確保を図っている。（資料 9-2-②-B6）

**【別添資料】**

- 資料 9-2-②-B1 事務系職員等の研修の基本方針
- 資料 9-2-②-B2 平成 20 年度事務系職員の学内研修実施実績
- 資料 9-2-②-B3 派遣研修生の研修レポート（例示）
- 資料 9-2-②-B4 技術職員研修日程表
- 資料 9-2-②-B5 TA 研修会
- 資料 9-2-②-B6 留学生チューターに対する説明会

**【分析結果とその根拠理由】**

事務職員及び技術職員に対する研修は、基本方針を定めて実施し、得られた情報の共有に努めている。各学部においても、職務内容に応じた研修を行っている。また、TA の資質向上を図るための研修会や講演会を実施している。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

## (2) 優れた点および改善を要する点

### 【優れた点】

- 教務情報システムを新たに整備し、全学的な規模で教務関係データの収集、整理、蓄積を行う体制が構築されている。(観点9-1-①)
- 学生による授業評価を全学的に実施し、その結果を「授業改善のためのアンケート調査結果報告書」として公表している。また、調査結果に基づき担当教員が自己点検を行い、その結果を「教員による自己点検レポート集」として作成・公表している。(観点9-1-②)
- 学生と教職員が意見交換を行う、学生参加型の学内合同研修会「きっちよむフォーラム」の開催をはじめ、ワークショップ形式や講演会形式など多様な形式でのファカルティ・ディベロップメントを実施している。(観点9-2-①)

### 【改善を要する点】

- 教務情報システムと学内の他システムとの間で効果的な連携など、教育改善に役立つ集約的・機能的なデータ収集・管理システムの構築が課題である。(観点9-1-①)

## (3) 基準9の自己評価の概要

- 各学部等で教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積している他、教員データ統合システムや新たに導入した教務情報システムにより、全学的な規模での教務データの収集、管理、蓄積を行う体制が構築されている。(観点9-1-①)
- 学内合同研修会「きっちよむフォーラム」で、教職員と学生が意見交換を行い、その結果を教育の質の改善に結び付けている他、「授業改善のためのアンケート調査」で意見聴取した結果を、自己点検や授業改善に活用している。更に、各学部・研究科においてもアンケートや意見交換会など、独自の方法で学生の意見を聴取している。(観点9-1-②)
- 外部評価、卒業生や就職先関係者のアンケートや意見交換会などにより、学外関係者の意見聴取を活発に行っている。また、意見聴取を行った結果を教育の質の向上、改善に継続的にフィードバックしている。(観点9-1-③)
- 「学生による授業評価」を実施し、調査結果を報告書として公開している。また、担当教員もその結果に基づき自己点検を行い、「教員による自己点検レポート」として取りまとめている。更に、教員評価の実施により、教員の質の向上に係る制度も整備している。(観点9-1-④)
- 「授業公開ワークショップ」、「WebClass 利用講習会」、「授業記録装置講習会」等、授業改善に向けた様々なFD関連事業を継続的に実施している。FD活動については報告書を作成の上、公表し、多くの教員が成果を共有できるようにしている。また、これらのFD活動が授業改善に関する教員の意識や教育の質の向上に結びついていることは、学生による授業評価アンケート結果などから把握できる。(観点9-2-①)
- 事務職員及び技術職員を対象にキャリア・アップ研修の基本方針を定めるとともに、教育支援者や教育補助者に対して、それぞれの職務内容に応じた研修を行い、資質の向上を図っている。(観点9-2-②)